

事故事例に学ぶ

11

交差点付近での衝突事故



考え事をしている左折する交差点に気付くのが遅れ、急な車線変更をしたために左側方のオートバイと衝突

事故の概要

発生状況

日時：平成12年11月某日、午前6時50分頃
天候：晴れ
発生場所：横浜市金沢区内

道路状況

道路幅員16メートル、両側にそれぞれ2メートルの歩道が設けられており、車道はアスファルト舗装、片側2車線の幹線道路。

事故現場は直線道路で前方約60メートル先には信号機のある見通しの良い場所である。

事故の当事者

運転者A（大型貨物車10t）：46才男性
運転者B（自動二輪車400cc）：28才男性

被害状況

A：左フロント擦過痕
B：左足骨折、右腕打撲等、重傷

事故状況

Aは、運転歴25年のベテランドライバー。いつものように大型トラックを運転し、名古屋から帰り荷の電器部品を積み、横浜の営業所に向かう途中であった。

名古屋を出発したのは事故前日の深夜。高速道路を走行し、途中サービスエリアで約50分の休憩を取り、午前7時には営業所付近まで差しかかっていた。

当時は早朝ということもあり交通量も少なく、また走り慣れた道路でもあったため、Aの緊張は緩み、「長女の誕生日に何をプレゼントしようか？」などと考えごとをはじめた。そのうち左折する予定の交差点が約60メートル先に迫っているのに気が付いた。

普段のAなら、左折のために交差点の300メートル位手前から左側車線に進路を取っている。しかし、このときのAは右側車線を時速60キロで走行していた。

プレゼントを考えている間、車は漫然運転となり、左折する交差点はあっという間に現れどんどん迫ってくる。

慌てたAは、咄嗟にウインカーを出し、左後方の確認が不十分のままハンドルを切った。それと同時に、運転台左側から「ガツン」という鈍い衝撃音が聞こえた。

ブレーキを踏んで車から降りてみると、自車後方でBの乗るオートバイが転倒していた。

事故の原因

名古屋を出発したAは、高速道路を運転中は緊張状態を持続していたが、一般道に下り、い

いつもの走り慣れた営業所近くの道路に差しかけた所でホッとして緊張感が解け、さらに交通量も少ない時間帯であったため、考えごとをする幾分の余裕が生まれ、いつも車線変更している地点に気付かずに漫然と運転してしまった。

そして左折する交差点が直近に迫ったのに気付かず、慌てて左方向指示器を出すと同時に車線変更をしたために、左車線を走行していたオートバイに気付かずに衝突したもので、運転の緊張が欠落した漫然運転からの、後方確認不十分による急な車線変更が原因である。

事故防止策と安全指導

漫然運転の防止

運転者であれば、誰もが事故を起こす危険を持っています。これはどんな優良運転者、ベテラン運転者であっても例外ではありません。優良運転者やベテラン運転者でも、今までの運転経験から、とすると「事故は起きないだろう」という油断が本人や周囲にあり、これが思わぬ事故に結びつくケースがあります。

一度ハンドルを持てば、誰しも緊張感を持って運転しなければならないことは判っています。しかし時には、「体調を崩している」、「心配ごとがある」、「長距離運行や走りなれた道路で気が緩む」といった状況、場面で考えごとに陥り漫然運転となっていることが多いようです。

事業所の管理者は、日頃から運転者の運転能力・適性を知っておくことは勿論のことですが、本人の健康状態、身上等の把握に努め、必要な指導・助言をし、運転に集中できる運行計画を立てることが大切です。

左への進路変更時はオートバイに要注意

片側2車線道路において、左端の第一車線に進路変更する際に、バックミラーを見て進路変更したのに進行してきたオートバイと衝突したという事故はよく発生します。

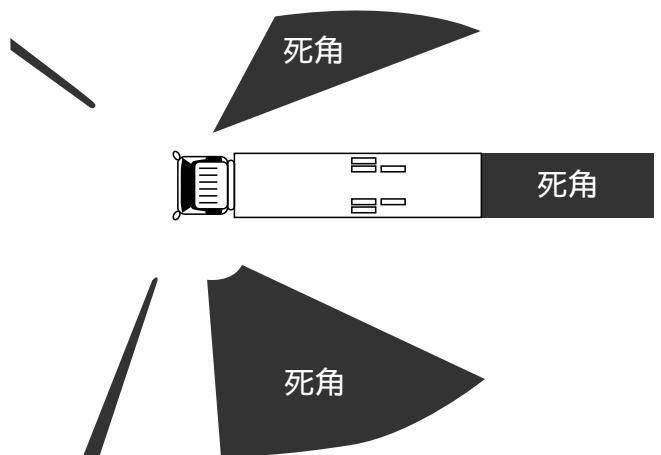
このような事故の要因は、トラックの左側方の死角は右側方より大きく、さらに、左端の車線はオートバイの通行が多いためです。特に大型トラックは、左側方部分の死角が大きく、自

分では安全確認したつもりでも、オートバイを見落とすケースがよくあります。

一方、オートバイ側からは自車がトラックの死角に入っているという意識が少なく、そのまま進行しても大丈夫と思いながら走行しています。死角に入ったオートバイは、ミラーを一度見ただけでは確認しきれません。

左車線への進路変更は、右車線へ移るとき以上に慎重に行い、合図のウinkerを出した後すぐの車線変更は控え、ハンドルを切るまでに走行速度を変えたりしながら、ミラーを断続的に繰り返し見ることで、後続車の有無を確認することが大切です。

トラックの死角



不用意な進路変更はしない

交差点付近を走行する場合、不用意な追越しや車線変更は非常に危険ですので慎むべきです。交通事故を起こした時の責任割合は、現状の走行を変更した側の方が大きくなります。事例のように急な車線変更によって隣接する車線のオートバイと衝突したり、交差点で右折待ちをしている先行右折車を避けようとして、少し左に寄ったところ、隣の車線の車両と衝突する事故などが多いようです。

慌てて車線変更することは、安全確認の省略につながってしまうのです。

無理な車線変更をするくらいであれば、次の交差点で左折するくらいの余裕を持った運転を心掛けてください。